

当館が認知した主な犯罪の事例（1 月～3 月）

以下は、当館が認知した特徴的な犯罪の手口です。

※ 特に断りがない場合、実際に邦人の方が被害に遭った（若しくは未遂）の事例です。

1. スリ、置き引きの被害

【事例 1】

アムステルダムからケルンに向けグループで都市間列車に乗車中、頭上の棚にパスポート等が入ったバック等を仲間内で固めて置いていた。ケルン駅に到着し降りようとしたところ、うち一つのバックの位置に、似たような別のバックが置かれていることに気がついた。まわりの乗客に聞いても当該バックの持ち主は現れず、固めて置いていたバックの内の一つだけが入れ替わっている状況から、悪意を持ってバックがすり替えられたものとみられた。

【事例 2】

デュッセルドルフ市内の日本食レストランで仲間と飲食中、自分の席の背もたれのところにバックを置いていた。途中、何度かトイレ等で席を立ったが、特段異変を感じないまま食事を終え、帰ろうとしたところで良くバックを確認したところ、似た別のバックにすり替わっていることに気がついた（中にはペットボトル等のゴミが入っていた）。店は混み合っており、常時人の出入りがある状態であったが、仲間も店員も不審な人物には気がつかなかった。

【事例 3】

ドイツ語の習得のため数か月間の語学留学中。普段どおり音楽を聴きながら帰宅していたところ、路面電車に乗ってすぐに音楽が切れた（音楽は携帯から Bluetooth で飛ばしていた）。上着のポケットに入れていた携帯電話を駅で落としたのではないかと思い、すぐに電車をおりて乗車した駅に戻ったが、携帯電話はなかった。路面電車に乗る前、同じ人物が何度も自分の前を通り過ぎたり、その人からぶつかるような感覚があったことを思い出した。

【事例 4】

デュッセルドルフ市内でたくさん買い物をして帰宅途中、荷物が多かったことから駅のベンチに一旦全ての荷物を置き、再度出発した際に**うち一つのバックだけをほんのわずかの間置き忘れた**。すぐに気がついて戻ったものの、既にバックはなくなっており、近くにいた人から「今 2 人組の男が持ち去った」と教えられた。

【事例 5】

パリに旅行に出かけ、混み合う地下鉄を利用したところ、20～30 代くらいの若者数人に囲まれていることに気づいた。程なくして**ズボンのポケットに手を入れられそうになる感覚があったことから、ポケットを手で押さえたところ、今度は、背後からぶつかるような感覚もあった**。警戒しながらしばらくの間身構えていたところ、若者がいなくなったかと思ったら、体にたすきに掛けていたはずのバックが丸ごとなくなっていることに気がついた。

2. 車上ねらい

【事例 1】

アムステルダムに同僚と出張中、市内の屋外駐車場に昼食のため 1 時間ほど車を駐車。スモークが張られて外からは見えにくい後部座席にバックを置いていたところ、車に戻ると窓ガラスの一部が割られ、車内が物色されて、後部座席に置いていたバック 2 つがなくなっていた。

【事例 2】

夕食をとるべくインーマン通りの駐車スペースにレンタカーを駐車。リモコンでロックをしたつもりだが、食事が終わり車に戻ってみると車内が物色されており、トランクに入れていたパスポート在中のバックが持ち去られていた。**レンタカーの鍵穴やドア周辺に破壊されたような跡はなかった。**

※ 電磁的、物理的に車両ドアを解錠する車上ねらいの手口が散見されます（ドアに破壊痕跡は残りません）。車は「金庫」ではありませんので、貴重品を放置しないようにしましょう。

犯罪に巻き込まれた場合は、まずご自身の安全を確保した上で、その場から速やかに 110 番通報または最寄りの警察署に被害の届出を行ってください。